

個人質問



平成会
越川 正成
こしかわ せいせい

議員
哲 ありき

山武市立小中学校規模適正化について

問 今回示された小中学校の規模適正化・適正配置基本計画(案)では、実施時期が前期と後期の2段階に分かれているが、なぜ一気にやらないのか。

答 教育長 将来的に市の学校はすべて小規模校になってしまうため、すべての小中学校を対象に原案を作りました。これらを一気に全部実現させていただけるとは少し違った形になったと思います。地域に学校を残したいという意見や市の財政計画、児童生徒数の減少の推移、学校施設の老朽化などの状況を配慮して、前期と後期の2期に分かれた計画となっています。

問 新たに市となつたことを踏まえ、隣接する2校の統合だけでなく、もっと革新的な組み合わせがあるのではないか。

答 教育長 複式学級になっている小学校や、単学級になっている中学校がある現状において、できる限り早くその解消に努めていかなければなりません。より結びつきの強い隣接学区との組み合わせが、理解が得られやすいということ。今回の組み合わせになりました。

問 既存の学校施設だけを使って統合するのではなく、必要であれば新たな場所に学校を建設するという柔軟な対応もあつてよいのでは

ないか。

答 市長 この統合案は、さまざまな要因が考えられるなか、現段階では最良と思われる案を示しました。特に私も市長部局・財政担当からしますと、市の持っている資産を最大限に有効利用していくことが基本にありますので、既存の学校施設を活用するということを教育委員会にお願ひして、今回の統合案となりました。

問 人口の集中している地域に小中学校を設置することは当然の選択肢だと思うが、人口分布の多い成東地区に小中学校がなくなる今回の統合案には無理があるのではないか。

答 市長 学校は人口の集中している中心部に設置するという考え方もありますが、市のすべての子ども達が、どこに住んでいようと義務教育のなかでは同じような条件のもとにおいてあげることが必要だと思います。このように考え

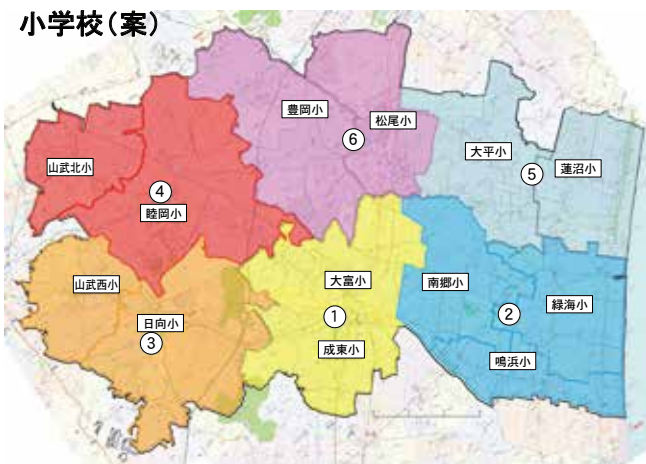
ますと、場所の選定は必ずしも市の中心部でなくともよいのではないかと思います。

問 この計画は実施期間が10年、20年といった長期の取り組みになるが、途中で計画の変更を求められるのではないか。

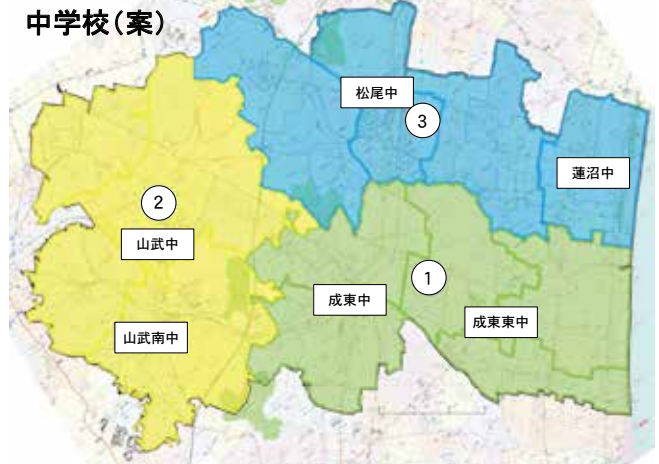
答 市長 このように変化の激しい時代ですから、これから市も地方創生の事業を展開していく中で環境が変わり、今よりも適正な配置が考えられる時期が来るかもしれませんので、この計画をいったん決めたから100%これで行くということにはならないと思つています。ただ、規模の適正化に着手しなければならぬ状況にありますので、この計画をスタートさせ、前に進めていきたいと思つています。



小学校(案)



中学校(案)



現在市内に13校ある小学校、6校ある中学校を統廃合し、色分けした各エリアに1校ずつ配置し、小学校6校、中学校3校とする案

現在計画されている学校統廃合の案